

受験生の皆さんへ

『山形県特産果樹の受粉・受精機構に関する研究』

山形大学農学部安全農産物生産学コース

助教 松本 大生 (MATSUMOTO, Daiki)

左図：オウトウ受粉雌ずい中の花粉管顕微鏡写真
 矢印は最も伸長した花粉管の先端を示す。自分の花粉（自家受粉）は伸長が抑制されていることがわかる。

右図：オウトウの自家不和合性の分子機構モデル
 花粉に取り込まれた雌ずいタンパク質S-RNase (SRN) は自己花粉のみに毒性を発揮すると考えられているが、その詳細な機構はわかっていない。

多くの植物において、果実が実るためには花の受精が必須です。しかしながら植物種によっては、自分の花粉が受粉しても受精できない性質（自家不和合性）をもつものがあります。山形県特産果樹であるオウトウやアケビをはじめ、いくつかの果樹はこの性質を持っています。これらの果樹を栽培するうえでは、人工受粉や受粉樹混植といった受粉管理をしなければ安定した果実生産は望めません。

現在、オウトウとアケビの自家不和合性について分子生物学的手法に基づいた研究に取り組んでおり、その精緻な機構の解明と研究成果の果樹栽培への応用を目指しています。

専門分野： 果樹園芸学
 自己紹介： 果樹種の生殖現象に興味を持っています。
 連絡先： 2827(内線)
 e-mail : daiki@tds1.tr.yamagata-u.ac.jp

